

久留米市地場企業景況調査レポート(平成18年10月～12月期調査分)

< 調査目的 >

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

< 調査対象 >

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社づつ、計600社を任意抽出して実施。

< 調査要領 >

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

< DI値とは >

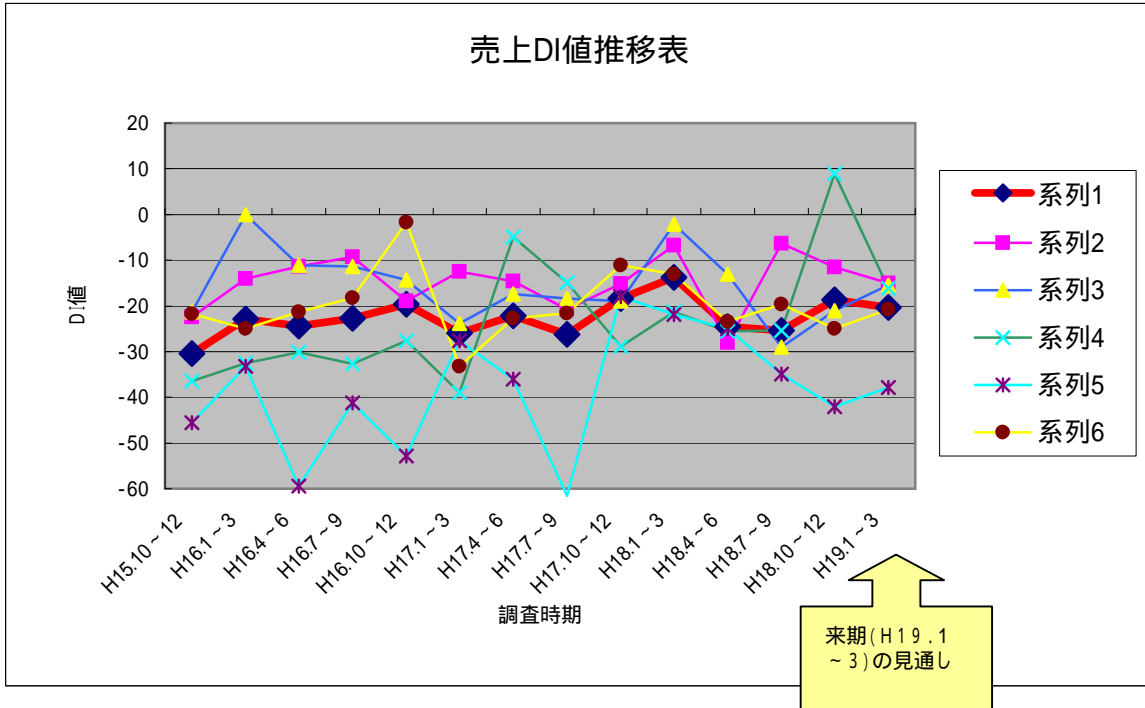
DI(ディーアイ、Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

< 平成18年10月～12月期調査分回収結果 >

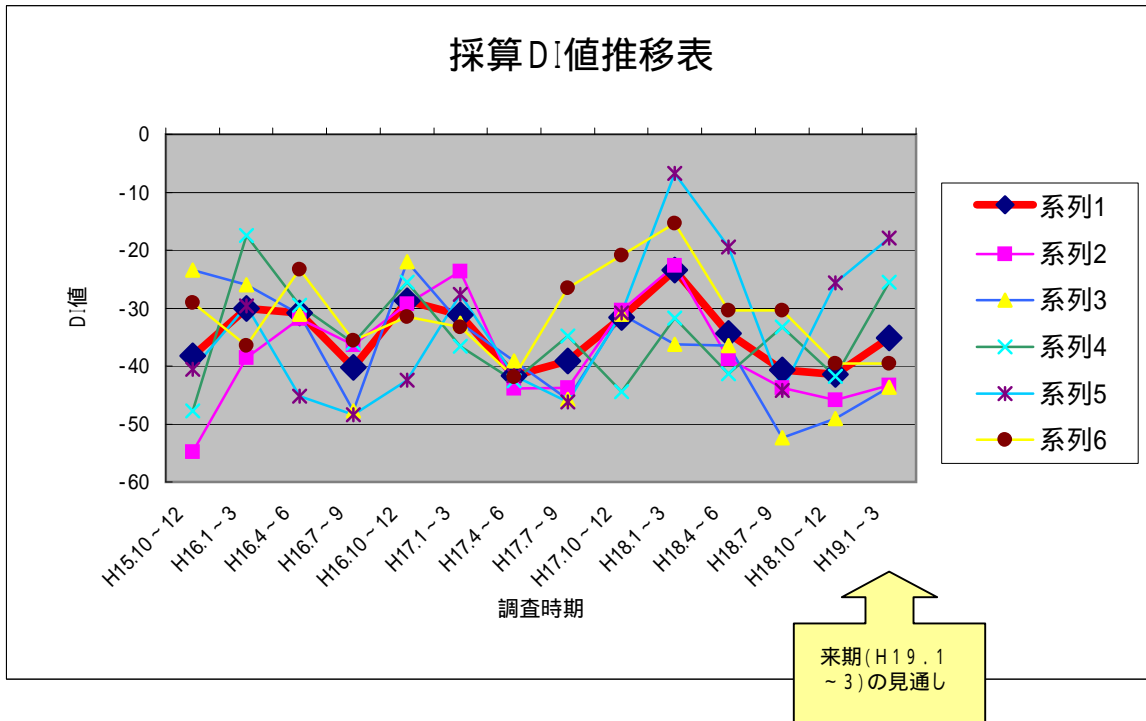
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	269	44.8%
建設業	120	61	50.8%
製造業	120	58	48.3%
卸売業	120	56	46.7%
小売業	120	39	32.5%
サービス業	120	55	45.8%

売上DI値推移表

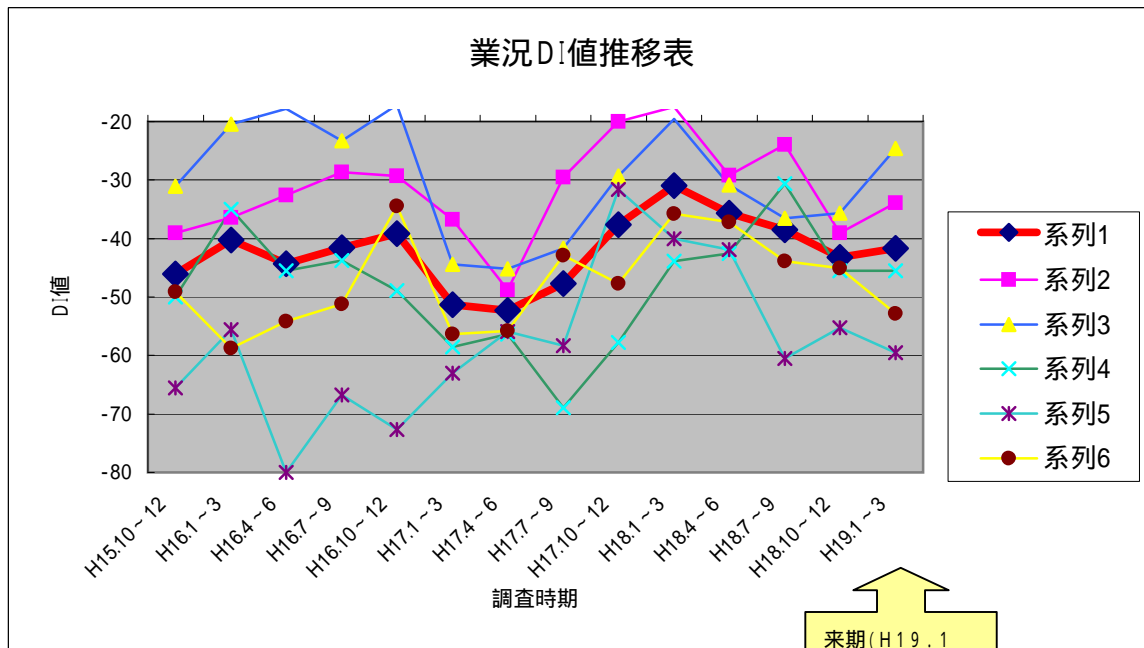


今期(H18.10~12)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は64社(前期比5社増)、「減少した」と回答した企業は111社(前期比15社減)、「横ばいである」と答えた企業は78社(前期比1社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに縮小して 18.6となり、前期比で6.8ポイント改善した。業種別のDI値では、建設業 11.5(前期比5.2P悪化)、製造業 21.1(前期比8.0P改善)、卸売業 8.9(前期比34.3P改善)、小売業 42.1(前期比7.2P悪化)、サービス業 25.0(前期比5.4P改善)となった。来期(H19.1~3)の見通しでは全業種DI値は 20.4と、1.8ポイント悪化する見込み。

採算DI値推移表

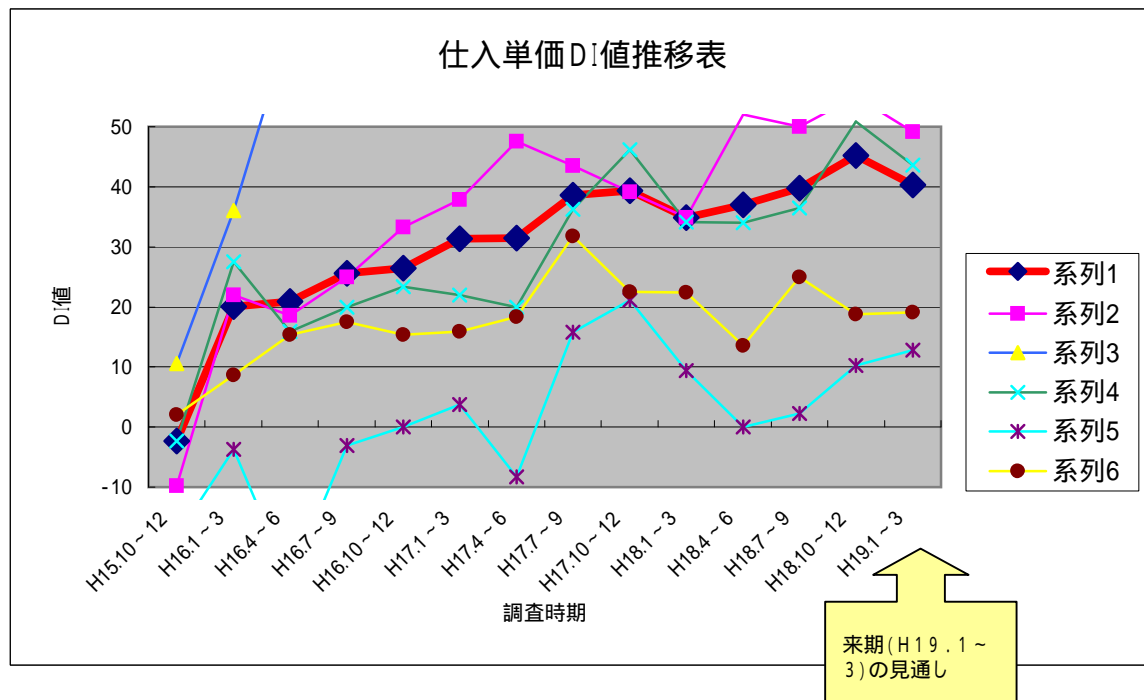


今期(H18.10~12)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は24社(前期比5社減)、「悪化した」と回答した企業は133社(前期比7社減)、「横ばいである」と答えた企業は106社(前期比2社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期連続で拡大して 41.4となり、前期比で0.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 45.9(前期比2.1P悪化)、製造業 49.1(前期比3.3P改善)、卸売業 41.8(前期比8.5P悪化)、小売業 25.6(前期比18.6P改善)、サービス業 39.6(前期比9.2P悪化)となった。来期(H19.1~3)の見通しでは全業種DI値は 35.1と、6.3ポイント改善する見込み。



今期(H18.10~12)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は12社(前期比13社減)、「悪化した」と回答した企業は124社(前期比1社減)、「横ばいである」と答えた企業は123社(前期比13社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期連続で拡大して43.2となり、前期比で4.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業39.0(前期比15.1P悪化)、製造業35.7(前期比0.8P改善)、卸売業45.5(前期比14.9P悪化)、小売業55.3(前期比5.2P改善)、サービス業45.1(前期比1.2P悪化)となった。

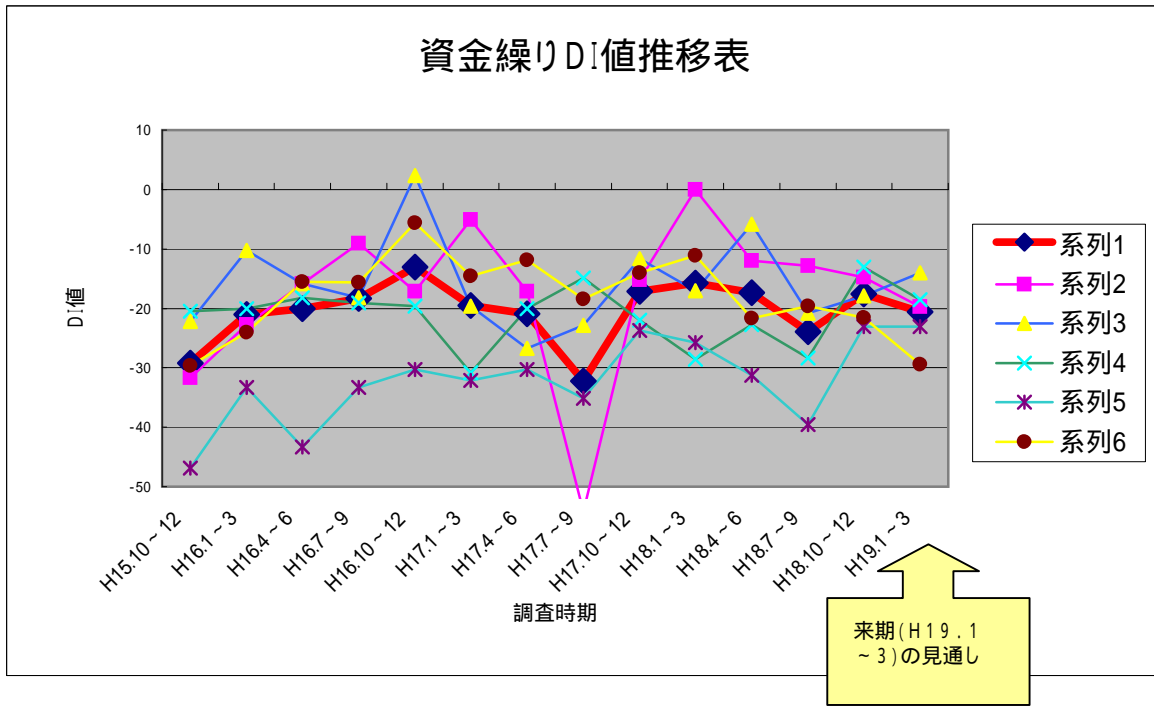
来期(H19.1~3)の見通しでは全業種DI値は41.7と、1.5ポイント改善する見込み。



今期(H18.10~12)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は133社(前期比6社増)、「低下した」と回答した企業は16社(前期比7社減)、「横ばいである」と答えた企業は110社(前期比1社減)であった。DI値を見ると、3期連続で拡大して45.2となり、前期比で5.4ポイント拡大した。業種別のDI値では、建設業55.0(前期比5.0P増)、製造業75.4(前期比2.8P減)、卸売業50.9(前期比14.4P増)、小売業10.3(前期比8.0P増)、サービス業18.8(前期比6.2P減)となった。

来期(H19.1~3)の見通しでは全業種DI値は40.3と、4.9ポイント縮小する見込み。

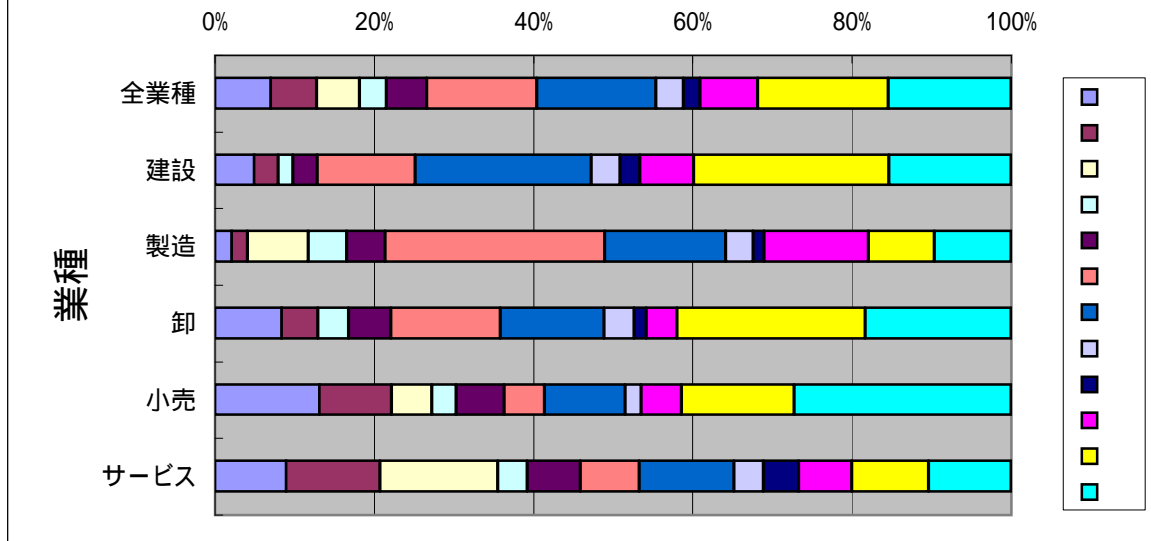
資金繰りDI値推移表



今期(H18.10~12)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は17社(前期比2社減)、「悪化した」と回答した企業は63社(前期比18社減)、「横ばいである」と答えた企業は181社(前期比22社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに改善して 17.6となり、前期比で10.3ポイント縮小した。

業種別のDI値では、建設業 14.8(前期比2.0P悪化)、製造業 17.9(前期比2.9P改善)、卸売業 13.0(前期比15.3P改善)、小売業 23.1(前期比16.4P改善)、サービス業 21.6(前期比2.0P悪化)となった。

経営上の問題点(複数回答可)



大企業の進出による競争の激化 同業者の進出 消費者ニーズへの対応 人件費の増加 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇 販売価格の低下 金利負担の増加 事業資金の借入難 従業員の確保難 需要の停滞 その他
 今期(H18.10~12)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(13.8%)」「販売価格の低下(15.0%)」「需要の停滞(16.3%)」を指摘する声が多く寄せられている。特に、建設業での「官公需要の停滞(24.5%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(27.6%)」、卸売業の「需要の停滞(23.7%)」、小売業の「需要の停滞(14.1%)」、サービス業の「利用者ニーズの変化への対応(14.8%)」に意見が集中した。

< 事業所から寄せられたコメント >

- 「10月以降は台風の影響で請負工事増であった」(建築工事業)
- 「12月は官公需要が増加」(土木建築サービス業)
- 「材料価格の高騰による利益率の低下」(電気工事業)
- 「事業の後継者が不在であるため将来の先行きが見えない」(一般土木建築工事業)
- 「請負単価の低下により工事の受注を控えている」(塗装工事業)
- 「中小企業にとって景気回復の実感はない」(水産食料品製造業)
- 「若年層の経験者不在」(玩具・運動用具製造業)
- 「鶏インフルエンザの風評被害が問題」(畜産食料品製造業)
- 「メーカーが自社にてメンテナンスをするようになり、受注が減少」(一般産業用機械・装置製造業)
- 「原材料価格の高騰で販売価格に転嫁できない」(その他の製造業)
- 「今後の借入金利の上昇と、需要の停滞が課題」(食料・飲料卸売業)
- 「顧客の高齢化」(衣服・身の回り品卸売業)
- 「地方経済が停滞し、中央との格差が広がっている」(建築材料卸売業)
- 「販売単価の低下」(その他の卸売業)
- 「慢性的に需要が停滞している」(一般機械器具卸売業)
- 「借入金の金利上昇で負担増となっている」(酒小売業)
- 「店舗の地代家賃が高く負担が大きい」(玩具・娯楽用品小売業)
- 「所得格差の増大に伴う消費の減少」(化粧品小売業)
- 「利用客の他地域への流出に歯止めがかからない」(医薬品小売業)
- 「事業資金の借入難及び金利負担の増加」(外食用品物品賃貸業)
- 「顧客の利用料金の低下」(クリーニング業)
- 「新規の受注の増加、来期も増加する見込み」(その他の加工修理業)
- 「若年層従業員の確保難」(歯科技工サービス業)
- 「中心市街地の駐車場は過剰であり、価格競争は消耗戦となっている」(駐車場業)